

●種採り品種  
品種 早生 晩生  
愛姫（極早生）、大福、無双  
千勝（タキイ）  
王将

## 秋まき ハクサイ

アブラナ科アブラナ属

ハクサイは中国北部が原産で、明治時代に中国から導入され、わが国の気候風土に適した作型に適応した品種が多く育成されています。

発芽適温は18~22°Cで好光性のため覆土は薄くします。発芽は早く乾燥気味の土壤でも3日以内に発芽します。また生育適温は18~21°Cで、結球期の適温は15~18°Cと比較的冷涼な気候を好みます。

根は一本の太い主根と支根からなり、根の活性は高いです。ただし作土が浅かったり、過湿では根の発生が少なくなります。

### 品種

結球ハクサイは、早生種の葉重型と晩生種の葉数型、その中間型の3つの結球型に分かれます。ハクサイは結球するために必要な葉の数が決まっています。秋まきハクサイは必要葉数が40枚程度の早生品種で、軟腐病などの病害に強い品種を選びます。ただし早生品種にも秋まき用と春まき用がありますので注意しましょう。

### 作付け

秋は、根こぶ病が出やすく、その対策として、ダイコンを前作にし不耕起でダイコンの植え穴にハクサイを植えます。または葉ダイコンを前作に作ると良いです。

乾燥気味の畑では、スイカーハクサイの組み合わせにすると、無肥料でがっちり結球した良質のハクサイが栽培できます。

### 土づくり

タネまき前、1mあたり1kgの堆肥を3週間前まで施し、深く耕します。追肥はタネまき後、20日目に株間にボカシ肥を1握り、根に当たらないように置きます。

### 栽培

うね幅1m、高さ15~20cmの高うねとし、タネまきは1ヵ所5~6粒まきます。株間は結球しやすくするために50~60cmと広めにとります。

間引きは、1回目を本葉1枚のときに行い、奇形、生育不良、病害の株を抜き取ります。2回目は本葉3~4枚頃行い、1ヵ所2~3株にします。本葉5~6枚の時に3回目の間引きを行い1株にします。

害虫の被害を軽減するためには、タネまき後、防虫ネットでのトンネル栽培が有効です。

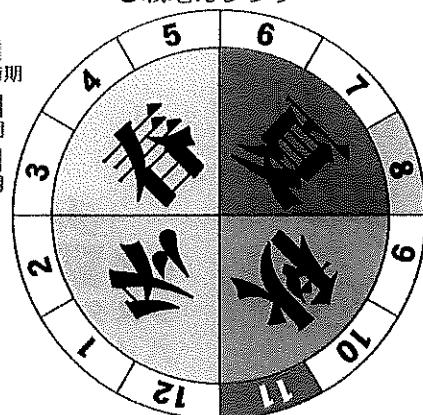
★★★★☆ やや難しい

データファイル

DATA FILE

は種時期	8月中旬～9月下旬	
定植時期	10月中旬～11月上旬	
前作	スイカ	連作 ○
うね幅	1m (1条)	うね間
株間	50~60cm	条間
混植		

●栽培カレンダー



## ハクサイ





●種採り品種  
 品種 春まき  
 桜風・剣幅・献夏青首  
 耐病強太り・快適強太り

## ダイコン

アブラナ科ダイコン属

ダイコンは、米などのデンプンを糖化する作用をもつジアスターを含んでおり、消化剤として副食として重要な野菜として昔から日本中で栽培されている野菜です。

産地ではダイコンを作る畠は連作するほど品質がよくなり、年々ダイコンに適した土地になるといわれます。

### 品種

ダイコンは、品種ごとの性格差はあまりありません。ただし春まきはとう立ちしやすく、晩抽種に限られます。また作土が浅い畠では丸ダイコンがおすすめです。

### 栽培

うねつくりは春秋とも同じで、うね幅は1.4~1.5mの2条植えとし、前作がウリ科作物の場合は無肥料で出発します。雑草や前作の敷き草などの未熟有機物は、多量でなければ1ヵ月前にすき込み、施肥をする場合、ダイコンの直下はさけ、条間に行います。

タネまきは条間50cmの2条まきが理想的です。秋は30cm、春は20cmの株間として、1ヵ所に3~4粒まきます。間引きは2回行い、1本立ちはタネまき後2週間までに行います。

### 秋ダイコン

適地は、耕土が深く排水と日当たりのよい畠です。「ダイコン十耕」といわれるよう深くよく耕すことに心がけましょう。

タネまきは、周囲よりできるだけ遅まきにし、キスジノミハムシ、シンクイムシの被害を回避します。また9月25日以前にまくとモザイク病が出やすいので注意しましょう。このように秋ダイコンは、播種日によって病害虫の回避が可能なので、地域の播種日を確認しましょう。

★★★★ やや易しい

### データファイル

### DATA FILE

は種時期	春：3月下旬～4月上旬 秋：8月中旬～9月上旬
定植時期	
前作	ウリ科作物、エダマメ
うね幅	1.4~1.5m(2条)
株間	春40、秋30cm
間作	うね間 条間 50cm

# 栽培カレンダー

東海地方を標準にカレンダーは作成されています。

— 収穫時期 —

— は種時期 —

— 定植時期 —

